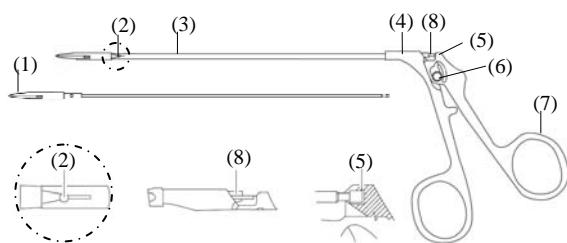


機械器具 39 医療用鉗子
 一般医療機器 鉗子 10861001
チューブラーシャフト フォーセプス

【形状・構造及び原理等】
1. 形状・構造

非回転式タイプ(2分割タイプ)


<各部の名称>

- (1) ジョーインサート
- (2) アウターチューブスリット部(ロック部)
- (3) ハンドルアウターチューブ部
- (4) ハンドル(非回転式タイプ)
- (5) ジョーインサート断端部
- (6) ハンドルストップ部
- (7) ハンドル稼働側リング
- (8) アウターチューブ断端部

2. 原材料

ステンレススチール

3. 原理

本品の先端にて臓器、組織又は血管を非外傷性に把持、結合、圧迫又は支持をする。

【使用目的又は効果】

本品は主に中枢神経系の手術にて、臓器、組織又は血管を非外傷性に把持、結合、圧迫又は支持するために用いる。

【使用方法等】

1. 本品は使用前に必ず洗浄、滅菌を行う。
2. 臓器、組織又は血管を非外傷性に把持、結合、圧迫又は支持する。
3. 使用後は以下の分解、組立方法に従い、適切にできるだけ早く洗浄を行う。

4. 分解・組立方法
<分解方法>

1)		ハンドル稼働側リング(7)をA方向へ、いっぱいまで開く。
2)		ハンドル稼働側リング(7)をB方向へスライドし、ストップバー部(6)を外す。
3)		ロックが開放され、ジョーインサート断端部(5)が見えていることを確認してから、ジョーインサート(1)をC方向へ引き抜く。

<組立方法>

1)		ジョーインサート(1)の先端部が開いていることを確認する。(約45°)その際使用する方向のまま挿入する。
2)		ハンドルアウターチューブ部(3)にジョーインサート(1)をD方向に挿入する。
3)		アウターチューブ断端部(8)よりジョーインサート断端部(5)が見えてること(上図)、アウターチューブスリット部(2)にジョーインサート(1)が最後まで挿入されていること(下図)を確認する。
4)		ハンドル稼働側リング(7)をA方向に広げたまま、ストップバー(6)がかかるまで、E方向へ引き上げる。
5)		ジョーインサート断端部(5)がハンドル内に収まっていることを確認して使用する。

<使用方法等に関連する使用上の注意>

1. 使用前
 - 損傷、磨耗、又は機能していない部位がないかを必ず点検すること。
 - 新品を使用する際は洗浄を行なってから滅菌を行うこと。
2. 使用中
 - 血液や組織片は局方精製滅菌水をひたしたリントフリークロスの柔らかい布でこまめに清拭すること。
 - 使用中は接合部に過剰な負荷や負担をかけないこと。誤った使用は接合部や把持部にずれや亀裂を生じさせる原因となる。
 - 本品は視界の範囲内でのみ使用すること。

【使用上の注意】

<不具合・有害事象>

以下の不具合・有害事象が発現する可能性がある。

[重大な不具合]

- 不適切な取り扱い、洗浄、管理により破損、変形、腐食、分解、変色、屈曲が生じる可能性がある。
- 金属疲労による機械器具の破損、分解

[重大な有害事象]

以下のような有害事象が発現した場合は、直ちに適切な処置を行うこと。

- 不適切な取り扱い、使用方法により血管、神経、軟部組織、筋肉、内臓、骨、若しくは関節の損傷
- 破損した機械器具の破片の体内留置
- 感染症

以上の有害事象の治療のため、再手術が必要な場合もある。

【保管方法及び有効期間等】

<保管方法>

- 高温・多湿・直射日光及び水濡れを避けて保管すること。院内の移動保管に際しては本体に衝撃が掛からないように取扱いに注意すること。
- ステンレススチールとアルミニウムのように異種金属の手術器具は、原則として別にセットすること。これは長期間保管の際に異種金属同士の電解沈着を防止するためである。

【保守・点検に係る事項】

- 適切な洗浄、取扱い及び滅菌、そして標準的な日常メンテナンスを怠った場合、器具の機能低下要因となる。
- 溶液（例：生理食塩水、次亜塩素酸ナトリウム、ヨード含有消毒剤など）にはステンレススチールに腐食や孔食を起こしやすいものがあるため長時間の接触を避ける、接触後は迅速に洗い流すこと。
- 漂白剤や水銀の重塩化物などの強酸（pH4 以下）又はアルカリ（pH10 以上）製剤を消毒に使用しないこと。
- ステンレススチール製の手術器具を長時間血液や生理食塩水にさらすと腐食が生じ、孔食や磨耗の発生原因になる。

1. 洗浄・滅菌

- 血液や体液に汚染された器具を取扱う際は、適切な保護用のマスク、手袋、メガネ、防水性エプロン等を着用すること。
- 器具に付着した血液及び体液は乾燥させないこと。
- 洗浄及び滅菌の前に手術器具を適切に分解すること。
- 壊れやすい手術器具は先端の損傷を防ぐために注意して取り扱うこと。特に洗浄及び滅菌の際は注意すること。
- 金属間の電解作用を避けるため、異なる金属組成の器具は別々に処理すること。
- 血液や体液に汚染された手術器具を安全に取り扱うために、必ず以下に概説する手順に従うこと。

(1) 洗浄

- 粘液、血液、その他の体液の凝固を防ぐため、手術器具を熱

湯や消毒剤に浸けないこと。

- 金属ブラシ（スチールワール、ワイヤーブラシ、パイプクリーナー等）や硬質ナイロンスポンジ、研磨剤入り洗剤を使わないこと。
- オウターチューブには内腔があるため、径にあつたブラシを用いて内腔も洗浄すること。
- 先端は開いた状態で洗浄すること。接合部と把持部は特に注意して洗浄すること。分解できるものは分解して器具の全面を洗浄すること。
- ① 予備洗浄
 - おおまかな汚染物を除去し、各器具を十分にすすぐこと。生理食塩水や塩素系溶液は使用しないこと。
- ② 手作業による洗浄
 - 器具を洗浄液に完全に浸漬させること。
 - 手作業による洗浄には、酵素が配合された洗浄剤や、蛋白質凝固変性作用のない洗浄剤を使用すること。強固に付着した汚れは洗浄液の中で軟らかいブラシ等を用いて洗浄すること。洗浄剤の濃度、温度、時間、及び再利用の可否に関しては洗浄剤の取扱説明書に従うこと。
- ③ 超音波洗浄及びウォッシャーディスインフェクター
 - 超音波洗浄を行う場合の水位や洗浄剤の濃度、温度に関しては洗浄機の取扱説明書に従うこと。
 - ウォッシャーディスインフェクターを用いる場合は、洗浄機の取扱説明書に従い、低発泡性の洗浄剤を使用すること。消毒及び洗浄を最適に行なうためには、水質によって洗浄剤の種類と濃度を調節する必要がある。
 - ウォッシャーディスインフェクターを用いる場合は、洗浄機の取扱説明書に従い、洗浄用バスケットに器具を詰め過ぎないように配置し、陰を作らないようにすること。
- ④ すすぎ
 - すすぎには完全脱イオン水（RO水）を使用すること。市水（一般的の水道水）に含まれる残留塩素や有機物質が器具表面のしみや錆発生の原因となる。
- ⑤ 乾燥
 - 洗浄後の器具は直ちに乾燥させ、湿った状態で放置しないで下さい。エアガンを用いて管腔内の水分を除去すること。

(2) 滅菌

推奨される滅菌方法及び条件

滅菌方法：プレバキューム式高压蒸気滅菌

滅菌条件：134°C、5 分

2. 日常のメンテナンス

<注油/組立て>

- 器具は再生処理工程の中で、毎回潤滑処理を行うこと。特に接合部など可動部分の潤滑が重要である。また、メンテナンスオイルを使用する場合は、乾燥後冷却した器具に注油を行うこと。
- 鉛物油、石油、シリコンベースのオイルは使用しないこと。ボックスロック及び接合部への注油は、非シリコーン系、水溶性の潤滑油、例えは Aesculap 器具用オイル（JG598 又は JG600）などを用いて滅菌前に行なうこと。
- 器具を再度組み立てる際は、必要に応じて組立て前にバスケットかトレイに入れること。
- 先端の折れ曲げ、くぼみ、亀裂、ずれや腐食がないかを点検すること。
- 錆、変色又は損傷した器具は必ず取り除くこと。
- 可動部分を点検し、各部が正しく作動することを確認すること。
- 応力亀裂を避けるために、滅菌する際に器具を完全に開放しておくこと。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売元：ビー・ブラウンエースクラップ株式会社
問い合わせ窓口：マーケティング部 TEL (03) 3814-2522
製造元： エースクラップ社、ドイツ
Aesculap AG